

栄養・子ども学部 子ども教育学科
教授 高野 秀晴 TAKANO Hideharu
専門・活動分野 教育史、日本思想史

最新の研究内容
テーマ：江戸時代の民衆教化について
研究/活動紹介
背景

江戸時代は、学問を称する教えが広く民衆に説き広められた時代でした。近年の研究では、学問に励んだ民衆の思想形成過程の掘り起こしが進み、その過程に民衆の主体性を読み取る傾向が強くなります。一方、彼らを教え導こうとする、ある意味おせっかいな人物たちに注目されることは少なくなっているようです。言い換えれば、江戸時代の民衆教化の実態については意外と研究が進んでいないのです。

江戸時代の民衆教化を考えるうえで、石田梅岩（いしだばいがん）（1685～1744）の学問を基に広く教化活動を展開した石門心学（せきもんしんがく）の動向は、普及範囲の広さという点で見逃げせないものの一つです。梅岩の弟子たちは師の著書を丹念に読み込み、所狭しとメモを取りながら学習を進めました（図1）。そのうえで、師の教えを平易に説き広める活動が展開していったのです。図2はその教えが子ども向けに説かれる様子を示したものです。当時としては異例なほど多くの聴衆の前に、口頭で教えが説かれる様子がよく分かります。

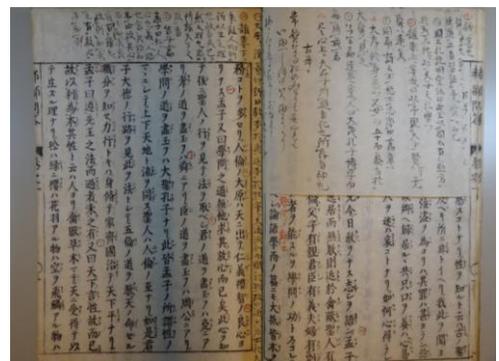
目的

本研究では、梅岩の弟子たちが師の教えをどのように継承することで教化活動を展開したのかを解明することを目的としました。

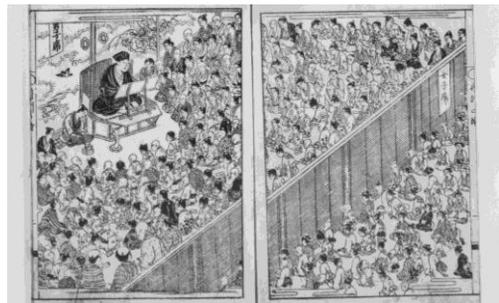
成果・効果や展望

梅岩は儒者を自称して活動しましたが、弟子の手島堵庵（てしまとあん）は、儒者を自称せず、師の教えを取り次ぐ立場を徹底しました。その結果、石門心学は学問とは言えないとの批判を巻き起こしていった動向を仔細に跡付けることができました。

<図1 石田梅岩『都鄙問答』1739年刊、架蔵>



<図2 手島堵庵『前訓』1778年刊、東北大学附属図書館野文庫蔵>


産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- 石田梅岩や石門心学の思想については、多少は解説できるのではないかと思います。
- 江戸時代の教育について概説し、生涯学習の見地から注目すべき点を説明する。
- 現代の教育の在り方に対して歴史的観点からコメントする。

学会・経歴

- 教育史学会
- 日本思想史学会
- 日本教育史研究会

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp